Osaka University Knowledge Archive

Title	E・ケジラハビの訃報を受けて
Author(s)	小野田, 風子; Onoda, Fuko
Citation	スワヒリ＆アフリカ研究. 2020, 31, p. 55-67
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/76771
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

E・ケジラハビの訃報を受けて

小野田 風子

0. はじめに

スワヒリ語作家のユーフレイズ・ケジラハビ（Euphrase Kezilahabi）が 2020 年 1 月 9 日早朝に亡くなった。76 歳だった。筆者は学部 3 年次から博士後期課程を修了するまでの約 7 年間、ケジラハビの作品と作家像を主な関心の対象としてきた。本稿では、ケジラハビの経歴や作品を振り返り、訃報を受けての本国タンザニアの報道機関や SNS における反応を紹介した後、筆者のケジラハビへの想いを述べたい。

1. ケジラハビの紹介

E・ケジラハビは 1944 年、現在のタンザニア、当時のイギリス領タンガニーカに位置する、ヴィクトリア湖に浮かぶウケレウェ島の村ナマゴンド（Namagondo）に生まれる。1967 年にタンザニアの高等教育機関の最高峰であるダルエスサラーム大学に入学し、卒業後、地方の中学校で教鞭を執った後、再びダルエスサラーム大学に戻り、助手として働き始める。この年から小説と詩集の発表を始め、1976 年には現代スワヒリ語文学の父とも言われるシャーバン・ロバート（Shaaban Robert）の研究で修士号を取得する。

ケジラハビが初期の作品を発表したのは、社会主義というイデオロギーがスワヒリ語文学の創作の場に強く影響を及ぼしていた時代であった。ケジラハビの小説はしばしば、その悲観主義やニヒリズムが社会主義の理想にそぐわないとして批判の対象となった。当時彼が最も注目を集めたのは詩の分野においてであった。彼はスワヒリ語詩の伝統的な規則に従わない自由詩を書いた初めての詩人の一人として、著名な定型詩の詩人たちによる激しい批判にさらされた。

1978 年にダルエスサラーム大学准教授となったケジラハビは、社会主義政策の雲行きが怪しくなるにつれ、政治色の強い作品を発表し始める。しかし政権批判的な戯曲が発禁処分となった後は、政治的姿勢が巧妙に曖昧化された小説を発表し、その後す

ぐに米国のウィスコンシン大学に留学してしまう。1985 年、41 歳の時にアフリカ哲学についての博士論文を完成させた後、タンザニアに帰国する。その頃にはタンザニアはすでに社会主義路線を捨て、新たな大統領のもと経済の自由化が進んでいた。ケジラハビはダルエスサラーム大学スワヒリ語学科の学科長を務めつつ、文学活動を再開させる。帰国後の彼の作風はそれまでとは一変し、哲学的な精神世界を実験的な手法で描くものとなった。その後、1996 年にボツワナに移住し、ボツワナ大学のアフリカ言語・文学科で教え始める。長い空白期間の後、2008 年に一点の自由詩の詩集を発表するが、それが遺作となった。

ケジラハビはスワヒリ語作家の中でも比較的熱心に研究され、中心的に紹介されることの多い作家である。東アフリカでは彼の初期のリアリスティックな小説の方に注目が集まることが多く、文化的検閲に果敢に挑みつつ、タンザニアにおける政治的、社会的問題に切り込み、疎外感などの心理を鮮やかに描写する作風が評価されている。一方、ヨーロッパのスワヒリ語文学研究者は、ケジラハビと世界の文学作品や文学理論との共通点により注意を払っている。特に、米国からの帰国後に書かれ、スワヒリ語文学初の実験的小説とされる『ナゴナ』（*Nagona*）と『迷宮』（*Mzingile*）が称賛されている。ケジラハビはスワヒリ語文学界に革新をもたらす作家として国内外の人々の興味を惹きつけている。

以下にこれまで出版されたケジラハビの全文学作品を出版年順に挙げる。この他に短編小説や評論が多数発表されている。

『ロサ・ミスティカ』*Rosa Mistika*（1971）

『頭でっかち』*Kichwamaji*（1974）

『激痛』*Kichomi*（1974）

『世界は混沌の広場』*Dunia Uwanja wa Fujo*（1975）

『蛇の脱け殻』*Gamba la Nyoka*（1979）

『ようこそ中へ』*Karibu Ndani*（1988）

『ナゴナ』*Nagona*（1990）

『迷宮』*Mzingile*（1991）

『マルクスの半ズボン』*Kaptula la Marx*（1999, 執筆は 1978 年）

『祝宴』*Dhifa*（2008）

2. 報道機関の反応

筆者はケジラハビの訃報を日本で受け取ったため、現地の新聞やテレビでの報道を確認することはできなかった。そのためここではインターネット上に掲載された訃報や追悼記事を紹介したい。なお、紹介するのは 2020 年 1 月 29 日までに確認可能であった記事のみである。

BBC スワヒリ語ニュースは 2020 年 1 月 9 日、ケジラハビが同日早朝にダルエスサラーム市内で亡くなったと伝えた。ケジラハビについてはタンザニア国内外で作品が広く読まれている作家とし、長くボツワナで勤務していたが、病気になってからはタンザニアに帰国し、約 2 年間にわたり治療を受けていたと書いている。さらにケニアの著名な作家ケン・ワリボラ（Ken Walibora）の追悼のコメントを載せている。ワリボラはケジラハビについて、「彼が使っていたのは簡単な単語だったが、それは隠された意味と深みのある哲学を有しており、作者の意味することを読者に考えさせる言葉だった」と評価している。

タンザニアの主要紙である『ムワナンチ』（Mwananchi）紙のウェブ版は、2020 年 1 月 9 日、「学者かつ作家であり、スワヒリ語とアフリカ哲学の研究者」の死を簡単に伝え、後日 14 日に「ケジラハビ教授はスワヒリ語文学を孤独の中に置き去りにした」と題したスワヒリ語学者アマニ・ンジョカ（Amani Njoka）による追悼記事を掲載した。ンジョカは、アフリカ文学やタンザニアの文学についてケジラハビ抜きに語ることは難しいとし、ケジラハビは「文学が寄りかかり支えとするための岩であった」という表現で彼を称えている。また自由詩や実験小説の創造といった功績を紹介し、特に『ナゴナ』と『迷宮』については、その高い芸術性と文学的技巧が読者を悩ませ、多くの研究者を惹きつけてきたと述べている。

別のタンザニアの英語新聞『デイリー・ネイション』（Daily Nation）のウェブ版も、2020 年 1 月 11 日に「ケジラハビ教授 : スワヒリ語文学の限界を押し広げた「反逆者」」と題した追悼記事を掲載した。書き手は著名なスワヒリ語作家キマニ・ンジョグ（Kimani Njogu）である。ンジョグによると、実存主義作家であり詩人でもあるケジラハビの功績は、スワヒリ語圏における芸術的、文化的制約を押し広げたことであり、特に女子生徒への性的暴力やウジャマー政策への失望を取り上げ、自由詩を生み出したことを評価している。また、同時代の作家であるサイド・アフメド・モハメド（Said Ahmed Mohamed）が社会の現実に目を向けているのに対し、ケジラハビはニーチェや

ハイデガーといったドイツ哲学にインスピレーションを得ており、西洋哲学とヴィクトリア湖周辺地域の口承伝承とを混ぜ合わせることで、スワヒリ語文学界を混乱に陥れたとする。多くの批評家から「悲観主義者」とみなされるケジラハビであるが、大変ユーモラスで冗談好きな人物だったとンジョグは回想する。

ケニアの英語新聞『ザ・マウント・ケニア・タイムズ』（The Mt. Kenya Times）のウェブ版も、2020 年 1 月 16 日に「ケジラハビ教授 : 死後もなおスワヒリ語文学の世界に名を轟かせ続ける」と題し、ナイロビ大学でスワヒリ語を教えるイリベ・ムワンギ（Iribe Mwangi）の追悼文を掲載している。ムワンギによると、ケジラハビの文学作品すべてが「人生の本質を問う」ことをテーマとしており、ケジラハビはその問いに常に悲観的な答えしか出すことができなかった。特に、主人公が最後に自殺する小説が多いことから、「絶望する作家」という評判もあるケジラハビであるが、人としての彼は物静かでユーモラスだったという。

3. フェイスブック（Facebook）上の反応

スワヒリ語圏ではフェイスブックが文学談議の場の一つとなっているため、そこでケジラハビへの追悼がどのように表現されているかを見てみたい。

フェイスブック上でもケジラハビへの追悼は散見された。最も多くの反応を得ていると思われるのは、タボラの大学講師フランシス・ダウディ（Francis Daudi）による 2020 年 1 月 9 日の投稿であり、「偉大なスワヒリ語作家のユーフレイズ・ケジラハビ教授がこの世を去った」という一文から始まる簡単な追悼文を挙げている。この投稿には 2020 年 1 月 29 日現在で 177 件の「いいね」等のリアクションと 56 件のコメントが寄せられている。コメントの内容には、大学で彼の作品をたくさん読んだという人や、どこで彼の本を手に入れられるのかと尋ねる人、また、「『ナゴナ』と『迷宮』というこの本……今に至るまで私には理解できていない……いつか彼に会ってなぜあの本を書いたのか聞きたいと思っていた……」といった小説の感想や、「彼は長い目をもち、自分の命を危険にさらし亡命してまで、周囲の人々と意見を異にすることを恐れないタンザニアの小説家／詩人の一人だった」といった称賛などがあった。

大衆小説の人気作家であるファズィー・ムタンガ（Fadhy Mtanga）は、タンザニアの小説家協会 UWARIDI（Umoja wa Waandishi wa Riwaya wenye Dira）のフェイスブックページに追悼文を投稿している。彼は中学生の時、ケジラハビに教えられた経験をも

つ。その学校の図書館で『ナゴナ』と『迷宮』に出会い、とても難しかったが魅了されて読んだという。また、ケジラハビの最初の作品『ロサ・ミスティカ』は、早すぎる恋愛や幼い少女の中絶、指導的な立場にいる者の良心の欠如など、社会における重い問いかけに触れており、スワヒリ語で書かれた最も素晴らしい小説の一つであるとし、近日中に出版される自身の小説において、主人公は『ロサ・ミスティカ』から大切なメッセージを受け取るという設定にしたと明かす。そして、「文学界のバオバブは倒れた。ケジラハビ教授は文学的で誠実、決定的な問題を照らし出すことのできるスワヒリ語の達人だった」と称賛する。さらにムタンガは締めくくりに、ケジラハビに捧げる追悼詩を載せている。以下に原文と和訳を引用する[1)]。

Nimesikia habari, Kezilahabi hayupo,
Kaenda yake safari, usorudi uendapo,
Ila kaacha fahari, urithiwe ungalipo,
Buriani wetu fundi, umenururisha lugha.

Buriani wetu fundi, ulonururisha lugha,
Juu zaidi ya shundi, pasi kurusha mabega,
Kirefu chake kilindi, pasipo singe kutoga,
Buriani eh Mwalimu, mwalimu wetu mahiri.

Buriani eh Mwalimu, ulojawa umahiri,
Kuipa lugha utamu, riwaya na ushairi,
Uliongezea hamu, Kiswahili kushamiri,
Buriani eh Mwandishi, mwandishi pasi kuchoka.

Buriani eh Mwandishi, hukuchoka kuandika,
Riwayazo fikirishi, akili ikatumika,
Ziloukuza utashi, fikira kuimarika,

1) なお、本文中のスワヒリ語からの和訳はすべて筆者による。

Buriani eh rafiki, kupitia Kiswahili.

Buriani eh rafiki, fundi kwenye Kiswahili,
Kazizo ’zimithiliki, kwa halua na hamali,
Ufundi haupimiki, kwa mizani na jedwali,
Buriani ndugu yetu, ulale pahala pema.

私は知らせを聞いた　ケジラハビがもういないと
彼はもう決して戻れない　旅に出てしまったと
しかし彼は誉を残し　その遺産も多い
さようなら、我らの達人よ　あなたは言語を照らし出した

さようなら、我らの達人よ　言語を照らす光よ
石を投げてもとどかぬマミジロバンケン[2)]の高みから
槍で刺すこともできぬ海底の深みから
さようなら、先生　我らの偉大な先生

さようなら、先生　あなたは真に偉大だった
スワヒリ語に小説と詩という　甘美を授けた
情熱に突き動かされ　スワヒリ語を広めた
さようなら、作家よ　疲れることを知らぬ作家よ

さようなら、作家よ　あなたは書き疲れることがなかった
あなたの小説に夢中になり　頭をひねった
好奇心を呼び覚まされ　精神を鍛えられた
さようなら、友人よ　スワヒリ語を介した友よ

さようなら、友人よ　スワヒリ語の達人よ

---

2) カッコウ科バンケン属に分類される鳥。

彼の仕事はいかなる砂糖菓子にも、あるいはいかなる苦役にも　例えることができない
その技巧はどんな定規や図表を用いても　図ることはできない
さようなら、我が兄弟よ　安らかに眠れ

この投稿は 82 件のリアクションと 16 件のコメントを獲得している。文学に関するページでの投稿ということもあり、今までに読んだケジラハビの本を挙げ、感想を書く人も多数おり、「何度目かに彼の『ロサ・ミスティカ』を読み直していて、つい昨日読み終わったばかりだったのに、今日になって……偉人よ、やすらかに」といったコメントも見受けられた。

また、作家のラウラ・ペッティ（Laura Pettie）も 2020 年 1 月 9 日、以下の追悼詩とともに「安らかに眠れ、猛者 E・ケジラハビよ。2019 年に『ロサ・ミスティカ』を再読するのは楽しいことでした」という投稿を挙げており、101 件のリアクションと 11 件のコメントを得ている。

Wakati wa kuwaenzi kwa vitendo umefika
Kumbukumbu zao jadidi zipate kuenzika
Wanaishi, wanatenda, wanaandika, wanaondoka
Wakiondoka tunawaandika, kipi tena chafanyika?
Eeh! Wakati wa kuwaenzi kwa vitendo umefika.

Nguli wa fasihi ni jina tumeshawapa
Fasihi ya Kiswahili ni yetu twajitapa
Twawaenzije hawa manguli wakishasepa?
Eeh! Wakati wa kuwaenzi kwa vitendo umefika.

先人たちに敬意を捧げる時が来た
彼らについての記憶に相応しい称賛が与えられんことを
彼らは生き、行動し、執筆し、そして立ち去る
彼らが立ち去る時我々は書く　これほどのことが再びなされ得るだろうか？　と

ああ！　先人たちへの敬意を行動で示す時が来た

文学の猛者というのが、我らが彼らに与えた称号
スワヒリ語文学は我らが自慢すべきもの
猛者たちが去ろうとしているとき、どのように称えればよいのか？
ああ！　先人たちへの敬意を行動で示す時が来た

報道機関の追悼記事は文学者らが執筆していることもあり、作品名を引用しながらスワヒリ語文学界におけるケジラハビの功績を客観的に伝えるものが多い。特に、性的な事柄や自殺など、当時は話題にすることが憚られた人の心の暗部を積極的に描き、文化的タブーに挑んだという内容面での革新と、自由詩と実験小説を初めて生み出したという形式面での革新双方が正確に把握されている。

一方フェイスブック上の追悼文では、かつて読んだ作品名を挙げるなど、より個人的な故人との接点が語られている。ケジラハビについて必ずしも詳しくはないが、みずからの共同体の偉人としてその死を悼むという姿勢もみられる。特に引用した二つの追悼詩は、アフリカに特徴的な誉め歌の文化を体現するものであり、興味深い。そこでは、故人への特別な想いは全く語られておらず、偉人を追悼するという行為そのものに価値が見出されている。これらの詩はケジラハビへの追悼詩であると同時に、大作家によって代表される自文化を、価値あるものとして守っていこうという表明でもあるのではないか。

4. ケジラハビと出会って

ケジラハビについて知ったのは、学部 3 年次の末に提出が義務づけられている「プレ卒業論文」のテーマを探しているときだった。当時、マジックリアリズムや不条理劇に惹かれていた筆者は、すでに授業で触れていた説教めいたスワヒリ語リアリズム小説ではなく、実験的で謎めいた小説を論文のテーマに選びたいと思っていた。スワヒリ語作家の経歴と作品の概要が網羅された『スワヒリ文学の概要』（*Outline of Swahili Literature*, Bertoncini-Zúbková, et al. Brill Academic Publishers, 2009）から、そういった作品を見つけ出すのに大した苦労はなかった。他の作品よりも説明文が明らかに長く、見解が引用されている研究者の数も多かったからである。また、タイトルの「ナゴナ」

（Nagona）という辞書に載っていない語にも興味を惹かれた。

それから卒業論文を仕上げるまでの 2 年間は、『ナゴナ』と、その続きの『迷宮』という二点の小説に夢中になったまま過ぎていった。作中の暗示的で寓意的な出来事の連続と、教訓めいているのに全く要領を得ない会話を辿るうちに、何か隠された重大な意味があるのに、自分にはわからないのだという思いに取り憑かれたのである。二作品は様々な分野の知識に筆者を導いてくれた。ニーチェやハイデガーを苦労して読み、羽アリの生態に詳しくなり、車輪がサハラ以南アフリカではついぞ発明されなかったことを知った。最も没頭したのは、作品と仏教との関係についての探求である。作中に多用される「円」や「冗談」といった語に、仏教思想とのゾクゾクするような類似を見いだし、パズルが徐々にはまっていくような錯覚に陥った。いつしかケジラハビは何か神的な存在に、二作品は聖典のように思え始めた。

思い返すと、あの 2 年間は、魅力的な表現に出会った時の喜び、手掛かりが次の手掛かりを導く時の高揚感、良い解釈を思いついたときの興奮など、文学研究者であれば誰もが羨む感覚を一気に得ることができた。その熱狂の中から生み出された成果は、二作品の謎を少しでも解くものではなく、ただただ二作品とケジラハビへの筆者の熱い思いを伝えるものでしかなかったのだが。

修士課程、博士課程では熱に浮かされた状態からやや回復し、より冷静にテキストと向き合い、少しは客観的な文章を書けるようになった。作家研究の完成のため、ケジラハビの作品や評論など手に入る限りのテキストに当たった結果、『ナゴナ』と『迷宮』の不可解さという特徴は、ほぼ全作に共通していたことが明らかになった。不確かさの原因は、文学に絶対的な明確さはそぐわないとし、「不透明性」に価値を置くケジラハビの芸術観である。とはいえ、その不透明性の奥には隠された意味があるのか、それとも不透明性の実現こそが彼の作品の目的なのかという問題は残る。結局のところ、7 年間の研究の集大成である博士論文においても、「つかみどころのなさ」、「不純」といった否定形でしか彼のことを語ることができなかった。

もっとも、ケジラハビを研究対象に据えたのは最良の選択だった。ケジラハビの作品はつかみどころがない一方で、タンザニアの政治、歴史、風俗、口承文芸、詩の伝統、さらにアフリカ哲学や西洋哲学、キリスト教や仏教など様々な分野に少しずつ関係しているため、それら関係する事象を学ぶことから始めた結果、幅広い知識に触れることができたのである。特に自由詩の先駆者としてのケジラハビを捉えるため定型

詩の伝統について学び、不可解な政治的記述を理解するため、タンザニア政治について学んだことは、博士課程修了後もスワヒリ語文学の研究を続けるきっかけとなった。ケジラハビは筆者にとって、実に恵み多き作家だったのである。

博士論文提出の 1 年前、当時ボツワナ大学で教鞭を執っていたケジラハビに積もり積もった質問をぶつけるべく、筆者はボツワナに赴いた。しかし到着した筆者を迎えたのは、ケジラハビが数日前に急病で倒れ、命に別条はないものの、意識が通常に戻らず、インタビューは不可能との知らせだった。驚きは特になく、ケジラハビはまたもや自分の手をすり抜けていったというお馴染みの感覚を覚えた。その後、ケジラハビ夫人の計らいで、退院したケジラハビ本人と彼の自宅で会うことができた。ソファに座り眼光鋭くこちらを見据える大柄なケジラハビは、年齢よりずっと若く見え、とても病気とは思えなかった。言葉を交わすことはできなかったものの、長年想い続けた人物が大変な時に会ってくれたことは、最良の思い出となった。

今、ケジラハビが亡くなったことで、もう二度と本人に真の意図を尋ねることもできなくなり、期待されてきた『ナゴナ』と『迷宮』の続編が書かれることもなくなった。現在あるテキストが手掛かりのすべてとなったのだが、その状況はこれまでと特に異なるものではないかもしれない。たとえ面と向かって質問をぶつけたとしても、はぐらかされるだけだっただろうから。

最後に、タンザニア人を真似て筆者も追悼詩を一つ作ってみたので、その詩で本稿を締めくくりたい。自由詩の先駆者であるケジラハビを追悼するためには、もちろん自由詩でなければならないだろう。

Japo miaka minane imepita tangu ulipouteka moyo wangu
Kwa kiasi gani nina ujuzi juu yako?
Kuhusu unachopenda na usichopenda, msimamo wako wa siasa, na hata kwamba ulikuwa unataka kumaanisha nini ulipotumia neno “tupu”, sijui!
Hakuna chochote ninachokijua kwa hakika juu yako.
Hata hivyo, ninaendelea kunyoosha mikono huku na kule kurasani kukutafuta wewe.
Ninapoinua kichwa changu baada ya kuchoka hukuona wewe kwa mbali ukinicheka.
Na kila mara ulipotoweka mbele yangu, ulirudi kwenye ile familia kubwa yenye furaha?
Kuniacha mimi ndani ya sentensi juu ya upweke na kifo.

Sasa, watu wanasema wewe hupo tena.

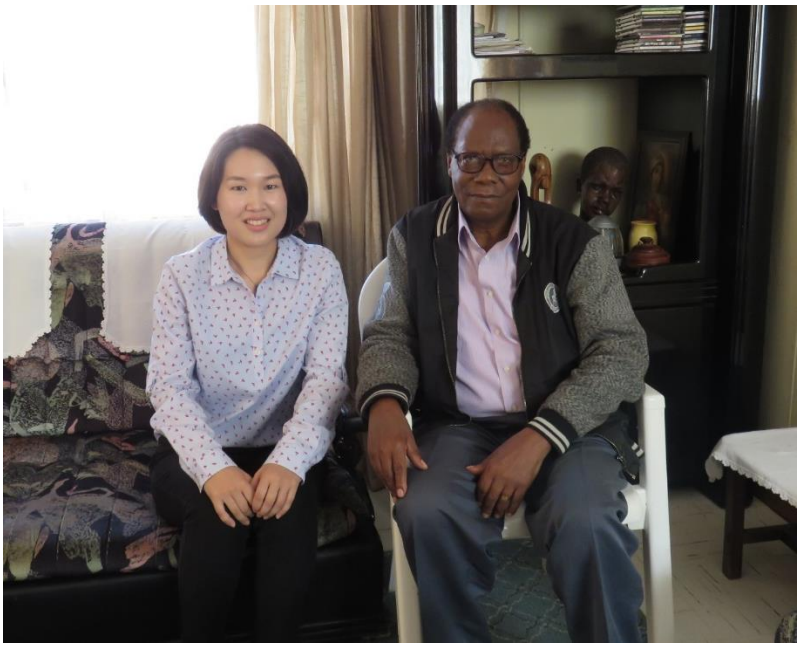
Umetoweka kama ngome inayozungukwa na mikuki, kama paa aliye na utelezi, na kama Nagona?

Kama ni hivyo, basi nitaanza tena safari ya kukutafuta wewe

Kwani utakuwa huko na ukinicheka mimi kama sikuzote ulivyokuwa.

あなたのことが頭から離れなくなって 8 年が経とうとしているのに
あなたについて何がわかっただろう
あなたの好き嫌い、政治的立場、tupu という単語であなたが何を表したかったのかさえ
知っていると確信をもって言えるものは何もない
それでもわたしはあなたを探してページの上であちこち手を伸ばす
疲れて顔をあげると遠くであなたが笑っているのがぼんやり見える
わたしの前から消える度、あなたはあの大家族の幸せな団欒に帰っていたのだろうか
孤独や死についての文章だけを私に残して

今、人々はあなたがもういないと言う
あなたは槍に取り囲まれた城、滑りやすいガゼル、そしてナゴナのように消えてしまったのか
そうだとしたらわたしはまた不器用にあなたを追いかけ始めよう
あなたはそこでいつものように笑って見ているだろうから



写真：ボツワナのケジラハビ宅にて（2017/9）

謝辞

本稿における詩の翻訳には、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻特任講師の Zainabu Kassu Isack 氏のご協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。

参考ウェブサイト

◆ 報道機関

BBC News Swahili “Profesa Euphrase Kezilahabi: Mwandishi nguli wa vitabu nchini Tanzania aaga dunia baada ya kuugua kwa muda mrefu”（2020/1/9）
https://www.bbc.com/swahili/habari-51046765（2020/1/29）

Daily Nation “Prof Kezilahabi: 'Rebel' who pushed boundaries of Kiswahili literature” Kimani Njogu（2020/1/11）
https://www.nation.co.ke/lifestyle/weekend/Kezilahabi--Rebel-who-pushed--boundaries-of-Kiswahili-literature/1220-5413738-lk9tqd/index.html（2020/1/29）

Mwananchi “Profesa Kezilahabi wa Tanzania afariki dunia Botswana” Gadi Solomon（2020/1/9）
https://www.mwananchi.co.tz/habari/kitaifa/Profesa-Kezilahabi-wa-Tanzania-afariki-dunia-Botswana/1597296-5412520-vbv0jiz/index.html（2020/1/29）

Mwananchi “UCHAMBUZI: Profesa Kezilahabi alivyoiacha fasihi ya Kiswahili katika upweke” Amani Njoka（2020/1/14）
https://www.mwananchi.co.tz/Profesa-Kezilahabi-alivyoiacha-fasihi-ya/1596774-5417658-bwxhba/index.html?fbclid=IwAR311agHScvgt8Bt-ZlRfBCZ0Cj4SQXpXU4YWl6dGAjVuq_UAGmgitWUsp0（2020/1/29）

The Mt. Kenya Times, “Prof E. Kezilahabi: Gone but Striding Kiswahili Literary World like a Colossus” Iribe Mwangi（2020/1/16）
https://www.mtkenyatimes.co.ke/prof-e-kezilahabi-gone-but-striding-kiswahili-literary-world-like-a-colossus/（2020/1/29）

◆　フェイスブック

Francis Daudi による追悼文（2020/1/9）
https://www.facebook.com/francis.daudi/posts/2692387457520399（2020/1/29）

Laura Pettie による追悼文（2020/1/9）
https://www.facebook.com/laura.pettie/posts/2862545510434415（2020/1/29）

Fadhy Mtanga による追悼文（2020/1/9）
https://www.facebook.com/UwaridiOfficial/posts/582988075612481（2020/1/29）